



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立大学機構

日本学術会議公開シンポジウム



名古屋大学

NAGOYA UNIVERSITY

# 女性の政治参画を進めるために議会と政党 は何をすべきか

2026年3月22日

日本学術会議講堂

名古屋大学大学院法学研究科

武田宏子

# 政党組織に関する提案

(1) 政党は、候補者選定過程が女性を含む多様な人材を登用する仕組みとなっているかどうかを点検し、男性への偏りを取り除くための一層の党内改革を行うべきである。具体的には以下の組織改革を実行することが期待される。

- ① 政党組織のあり方をジェンダー視点から再考し、男女比が偏っている人事配置を見直す。特に党幹部（地方組織を含む）及び職員の男女均等を図る。
- ② 候補者選定過程については、候補者を選定する組織等の構成員を男女均等にし、候補者選定基準についてジェンダー視点から再考し、結果的に女性が不利になっている状況を改善する。候補者の多様化を促すために、選定過程の透明化を図る。候補者選定に携わる人員に対しては、候補者選定の際にジェンダー・ステレオタイプの影響を受けないよう研修を行う。
- ③ 女性候補者の人材育成及び支援を積極的に行い、女性の立候補を促すために党組織内外でのネットワーク化を進める。

(2) 政党は、候補者を擁立するにあたり、女性候補者割合の数値目標を定めるだけでなく、女性当選者が実際に増えるよう、幹部の責任において方策を定めるべきである。

# 現状：第51回衆議院選挙（2026年2月）

## 政党ごとの候補者数・当選者数と女性比率

	候補者数	うち女性	女性候補者比率 (%)	当選者	うち女性 (小選挙区/比例)	女性議員比率 (%)
自由民主党	337	43	12.76 (-3.32)	315	39 (25/14)	12.38 (+2.43)
日本維新の党	89	13	14.61 (-3.07)	36	1 (0/1)	2.78 (-7.75)
共産党	176	67	38.07 (+0.78)	4	2 (0/2)	50 (+12.5)
社会民主党	15	5	33.33 (+3.92)	0	0	0
国民民主党	104	26	25 (+3.57)	28	8 (3/5)	28.57 (+7.15)
中道改革連合*	236	47	19.92	49	8 (0/8)	16.33
れいわ新撰組	31	12	38.71 (+4.42)	1	0	0 (-44.44)
参政党	190	82	43.16 (+5.27)	15	8 (0/8)	53.33 (-13.34)
減税日本・ゆうこく連合	18	1	5.56	1	0	0
安楽死制度を考える会	2	0	0	0	0	0
日本保守党	20	5	25 (+5.77)	0	0	0 (-50)
チームみらい	14	3	21.43	11	2	18.18
その他	52	9	17.31	5	0	0
合計	1284	313	24.38 (+1.02)	465	68	14.6 (-1.1)

\*前回総選挙実績

候補者  
立民 22.36%  
公明 16.0%

当選者  
立民 30 (19/11)/148  
20.27%  
公明 16.67%

# 現状： 各政党における男女共同参画の取組状況

各政党の男女共同参画の取組状況：女性候補者の増加をめぐる

	自民党	維新の会	国民民主党	立憲民主党	参政党	公明党	共産党	社民党
(1)	✓		✓	✓		✓	✓	✓
(2) ①	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
(2) ②	✓	✓	✓	✓		✓	✓	✓
(3) ①	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
(3) ②	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
(4)	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

(1) 女性議員に関する数値目標

(2) 人材発掘・育成の取組

① (立候補前の) 候補者となりうる女性の人材発掘・育成のための取組 ② 候補者の選考過程における取組

(3) 女性候補者・女性の新人当選者に対する支援等

① 女性候補者に対する支援 ② 女性の新人当選者に対する支援

(4) 男女問わず議員が活躍しやすい両立支援策（議員活動と家庭生活（出産、育児、介護等）の両立のために行っている取組や支援、議員活動と家庭生活の両立のために見直した慣行や制度等）

内閣府男女共同参画局「各政党における男女共同参画の取組状況と課題」（2025年4月）

<https://www.gender.go.jp/policy/seijibunya/pdf/r06.pdf>

# 現状：女性候補者支援の内容

## 自民党

- ・女性候補者（衆議院支部長）支援金制度（給付額100万円）
- ・子育て・育児支援金制度（男女問わず、給付額未就学児1人100万円、2人目以降は50万円）
- ・メンター制度
- ・党ホームページ内に、女性議員・候補者に関する情報を集約したサイトを公開（再掲）
- ・女性候補者人材のデータベース登録者へのOJTの実施
- ・女性局の選挙活動ツールの提供
- ・応援弁士派遣・女性局メンバーによる事務手伝い

## 日本維新の会

- ・現職、新人に関わらず期間中のベビーシッターなど利用の助成制度
- ・女性候補者同士の意見交換会（悩み相談会等も含む）
- ・日々の街頭演説等の活動へダイバーシティ推進局として帯同

## 立憲民主党

- ・票ハラなどのハラスメント防止対策、資金支援、政治・選挙活動支援
- ・選挙実施以前の研修会の実施、選挙本番中の支援（女性候補者集会の開催協力等）等
- ・女性新人候補者貸付制度を設置
- ・ケアラー支援制度を設置
- ・希望する女性候補者一人ひとりにメンター制を採用
- ・ジェンダー平等推進本部と選挙対策委員会とで「女性候補者支援チーム」を結成し、日常活動などの相談・支援を実施
- ・「全国女性キャラバン」の実施

## 公明党

- ・新人の候補者に向けて、「候補研修テキスト」を作成し、各都道府県本部や総支部において、勉強会を開催
- ・女性候補者に対し、可能な限り現職女性議員や、議員OG、個別のアドバイスやサポートを実施。何でも気軽に相談できるような体制を作っている

## 日本共産党

- ・候補者の性別に関わらず、政策決定、宣伝や組織活動、財政など、選挙活動のすべてを党の責任で行い、候補者の負担を軽減している
- ・状況に応じて子育て中の候補者のサポート担当を配置するなど、支援体制をとるようにしている
- ・議員、候補者の活動交流

## 参政党

- ・候補者の性別にかかわらず、広報物を簡単に作成できるフォームの提供や選挙戦略、収支報告等、選挙に関わることを本部・支部がサポートし、候補者の負担を軽減している。

## 社会民主党

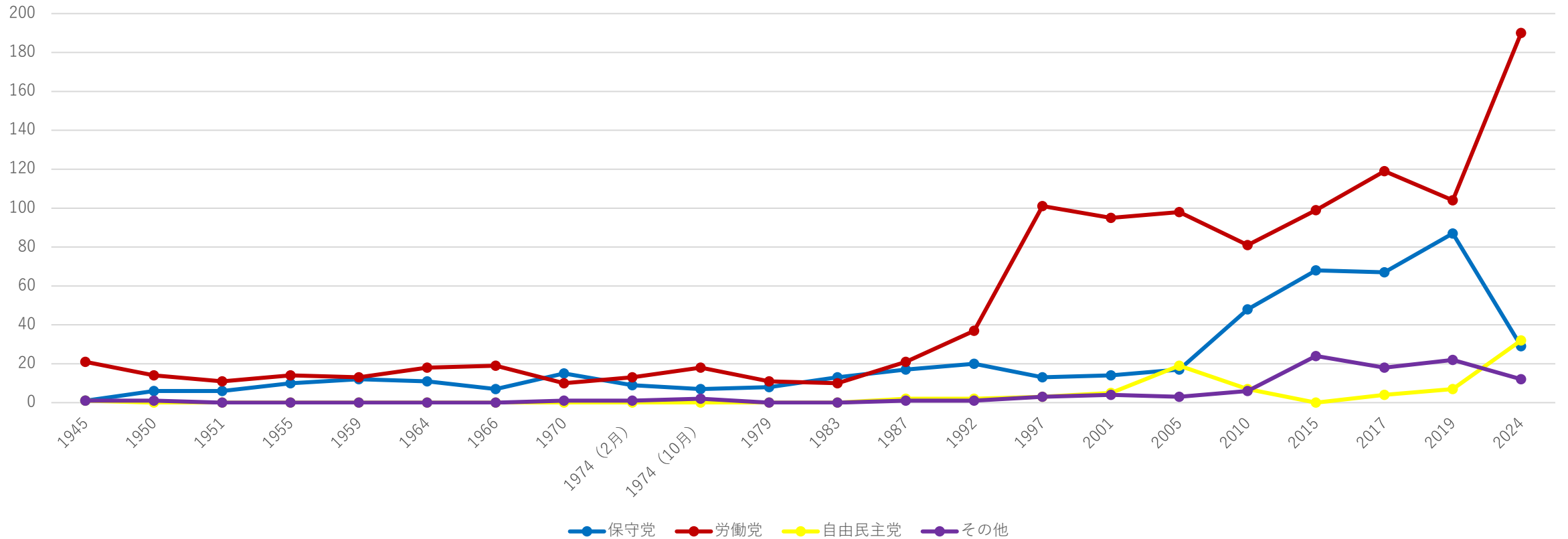
- ・女性に特化したものではないが、新人候補者には財政支援を行っている

## 国民民主党

- ・メンター制度・・・立候補から議会活動までを先輩議員などが伴走支援する制度
- ・カフェテリアプラン支援制度・・・介護や育児の負担を軽減するためベビーシッター代支援などのメニューを自由に選べる制度。
- ・代表直相談制度・・・代表と候補者が定期的にミーティングを実施する制度。
- ・都道府県連に対するカフェテリアプラン支援制度に関する財政的支援
- ・政党幹部の派遣応援・選挙におけるハラスメント（票ハラ）の防止ならびに被害対応について、ハラスメント防止のための行動規範等を党本部から周知

内閣府男女共同参画局  
「各政党における男女共同参画の取組状況と課題」より抜粋

# イギリスの事例： 庶民院における女性議員数の推移(1945~2024年)



# イギリスの事例：労働党と保守党



## 労働党

- 女性指定選挙区の義務化
  - 現職議員が引退を予定している選挙区
  - 勝ち目が高い選挙区
- トップダウン型で実施の確保
- 党の意思決定組織にクオータ制の適用
- 女性候補者支援策
- 「女性指定選挙区」選出の議員が他の議員と比較して、資質や能力、経験に劣るとは実証されない



## 保守党

- 男女均等の優先候補者リスト
- 女性候補者支援策
- 地方支部や草の根党員の抵抗を受け、男女均等候補者リストの実施が徹底されず
- 現在でもクオータ導入には消極的



「資質と能力」の重視

提案（2）「幹部の責任において方策を定め」これを確実に実施することの重要性

# イギリスの事例：党首&首相



<https://www.bbc.co.uk/programmes/b01s4g8y>



<https://www.museumofpm.org/prime-ministers/theresa-may/>



<https://www.gov.uk/government/speeches/liz-truss-final-speech-as-prime-minister-25-october-2022>

- 労働党では女性党首は選出されていない
- 保守党はこれまでに3人
- メイ：保守党での女性議員増加を目的として、党内ロビー活動を牽引
- トラス：男女均等リスト導入時に候補者に選出、キャメロン／メイのリーダーシップの下、閣僚に取り立てられる



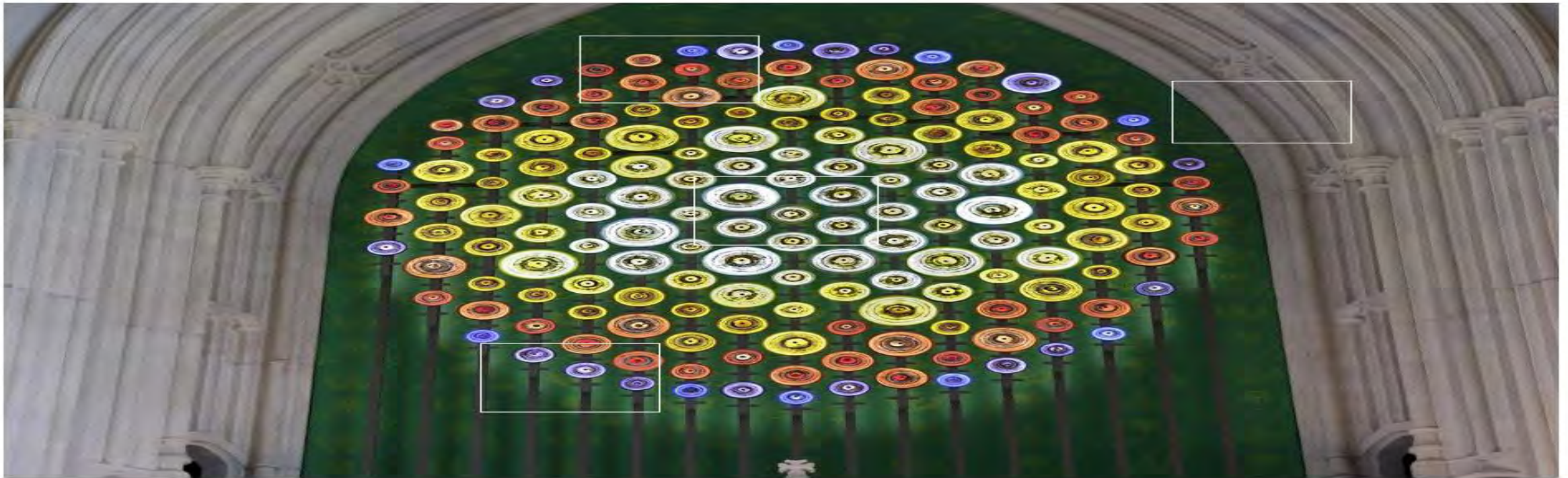
労働党での女性議員の増加

ご清聴ありがとうございました

## Explore 'New Dawn'

Search collection

Use the 'hot spots' below to explore Parliament's new women's suffrage artwork



**New Dawn** is a contemporary sculpture by Mary Branson commemorating the long campaign that led to some women gaining the vote in 1918, and all women in 1928.

**New Dawn** was unveiled on 7 June 2016, the 150th anniversary of [the first mass petition](#) submitted to Parliament calling for women's suffrage (the right to vote).